２０２２年度　古典Ｂ　第９回スクーリング資料

諸家の思想

孔子・・・「仁」を中心とする思想。儒家の始祖。
孟軻・・・孔子の教えを引き継ぎ、仁義・王道を唱えた。
老子・・・「自然」「柔弱」な生き方。道家の始祖。
荘周・・・人間、生死など根本問題を論じた。
韓非・・・法家の思想家。「信賞必罰」

※教科書Ｐ216～227の漢文のうち、黄色い〇で示されたタイトル部分だけ「書き下し文」「現代語訳」を挙げておきます。皆さんは教科書の本文で、訓点（送りがな、返り点、句読点）の位置をよく確認しておくこと。「書き下し文」から訓読文を思い返せるようになっておきましょう。

Ｐ216　〇已んぬるかな…もうおしまいだ。
〇三人行けば、必ず我が師あり…三人で歩いて行けば、必ずその中に自分の師とすべきものがある。

Ｐ217　〇敬せずんば何を以つて別たんや…もし親を敬愛しなかったらどの点をもって区別するのか
〇剛毅木訥…無欲であり、果敢に実践し、飾り気がなく、言葉がすらすら出ないこと

Ｐ218　〇盍ぞ各爾の志を言はざる…どうしてそれぞれおまえたちの志を言わないのか
〇仕へざれば義無し…仕えなければ義は成り立たない

Ｐ220　〇仁は人の心なり…仁は人の本来持っている心である
〇民の父母…国民の父母

Ｐ222　〇柔弱…柔らかで弱々しいこと

Ｐ223　〇百谷の王…たくさんの谷や川の王

Ｐ224　〇鴟腐鼠を得たり…ふくろうが腐った鼠を手に入れた

Ｐ225　〇蝴蝶の夢…ちょうちょの夢

Ｐ226　〇刻削の道…人物の彫刻を作る方法
〇法は王の本なり…法律は王の根本である

『論語』に説かれた「仁・礼」「孝・悌」
「仁・礼」…「仁」とは「人を愛すること」、「礼」とは「仁」が態度や行為として外面にあらわれたもの。
「孝・悌」…。「孝」とは子が親に尽くすこと、「悌」とは弟が兄に尽くすこと。

逸話　説苑

〇後患を顧みず…自分の背後に心配事があるのに、(目前の利益に気を取られ)ふり返らない。

露を飲もうとする蝉を狙う螳螂を狙う雀を撃とうとするパチンコ（弾き弓）

※目の前に、攻めたい国があるとそれに気を取られ、自分の国が攻められようとしていることに気づかないことのたとえ。
呉王の家来（少孺子）は、殺されるのを覚悟でこのことを伝えようとして、分かりやすいたとえを使ったと思われます。

二、諫（いさ）む…家来が命をかけて、君主に忠告すること。諫言（かんげん）。　・Ｐ230Ｌ４　三旦…三日間

三、「〇〇不敢」…決して～ない。無理に～しない。（否定）

六、古典の表現は、自分の生活をふり返るのに役に立つことがあります。ここも自分の生活でよく似たことがなかったかふり返る問題です。

新序　○人ごとに其の宝を有するにしかず…それぞれめいめいに宝を持っているのがよいだろう。

※宋人にとっての宝は宝玉、子罕にとっての宝は貪らない気持ちを持つこと。人それぞれに価値観が違うことを述べています。

一、白文から訓読文、書き下し文が書けるようになるための学習です。

二、P234L7　「故**敢**献之」…肯定文で使うときは「あへて」と読み、「思い切って～する」の意味。

・P234L10　子罕**非無**宝也（しかんはたから**なきにあらざる**なり。）…宝が**ない**わけでは**ない**。（二重否定＝肯定）

三、みなさんにも「宝」と思っている気持ち（考え）があるはず。ぜひ持ち続けて欲しいものです。

・P234L10～235L1「所宝者異也」…みんな一番大事にしたいものが違うのだ、ということ。

古体の詩　子衿

・青青 - 悠悠　（繰り返し）　・一日 - 三日　（対応）

詩形…四言古詩

押韻…衿（ｋｉｎ）、心（ｓｉｎ）、音（ｉｎ）
佩（ｈａｉ）、思（ｓａｉ）、…「偲」の音読みに「サイ」がある。来（ｒａｉ）
達（ｔａｔｉ）、闕（ｋｅｔｕ）、月（ｇｅｔｕ）

換韻（かんいん）

・四句目…嗣がざる　七句目…往かずとも　八句目…来たらざる　十一句目…見ざれば（助動詞はひらがなで書き下す。）

七歩詩

詩形…五言古詩

押韻…汁（ｊｕｕ）、泣（ｋｙｕｕ）、急（ｋｙｕｕ）

対句…第一句・第二句…調理して料理を作ることで共通した内容であり、レ点の位置も同じです。
第三句・第四句…食材が調理器具の中でどんな様子かが共通した内容であり、一・二点の位置も同じです。

・五句目…本同根より生ずるに（助詞はひらがなで書き下す。）

雑詩

詩形…五言古詩

押韻…塵（ｊｉｎ）、身（ｓｉｎ）、親（ｓｉｎ）、隣（ｒｉｎ）、晨（ｓｉｎ）、人（ｊｉｎ）

対句…第九句・第十句　盛年・一日…数字が出てくることが共通　重来・再晨…重なる文字が出てくることが共通

・二句目…塵のごとし　七句目…当に楽しみを作すべし　九句目…来たらず（助動詞はひらがなで書き下す。）

・五句目…兄弟（けいてい）…読みに注意！

・第十一句、十二句は「**時に及んで当に勉励すべし　歳月は人を待たず**」と読み、国語総合でも取りあげた部分ですが、正確には「若いときは二度とないのだから、楽しむべき時には楽しみなさい」という意味です。現在では「若いときは二度とないのだから、しっかり頑張れるときに頑張れ」と使われることが多いですね。

遊子吟

詩形…五言古詩

押韻…衣（ｉ）、帰（ｋｉ）、暉（ｋｉ）

対句…第一句・第二句…母と子、手の中と身の上、線と衣が対応しています。
第三句・第四句…密密と遅遅という繰り返しの語句、縫ふと帰るという動作が対応しています。

売炭翁

宮市に苦しむなり…助動詞はひらがなで書き下す。

詩形…楽府（がふ）…読みに注意！

押韻…「翁・中」、色（ｓｙｏｋｕ）、黒（ｋｏｋｕ）、食（ｓｙｏｋｕ）
単（ｔａｎ）、寒（ｋａｎ）、
雪（ｓｅｔｕ）、轍（ｔｅｔｕ）、歇（ｋｅｔｕ）
誰（ｚｕｉ）、児（ｊｉ）
勅（ｔｙｏｋｕ）、北（ｈｏｋｕ）、得（ｔｏｋｕ）、直（ｔｙｏｋｕ）

換韻（かんいん）

・七句目…憐れむべし　十八句目…惜しみ得ず（助動詞はひらがなで書き下す。）

竈門炭治郎も
炭売り←